

前回検討委員会からの整理

～ 目 次 ～

1. 第3回検討委員会コメントサマリー

1 第3回検討委員会コメントサマリー（1/2）

○全体再編計画（案）に関する主なコメント

- 回遊性が重要。西新宿全体の中での、都庁や都民広場の位置付けを整理した上で、再整備の方向性を検討できると良い。（坂井委員）
- メッセージ性については、もう一度確認したほうが良い。都庁がここで展開する新しいチャレンジは何か、「世界」「双方向」「環境」など、いくつかメッセージを出せると思う。（岸井会長）
- 「Tokyoite PLAZA」というコンセプトの「PLAZA」について、近くに京王プラザホテルなどもあり、場所が限定的に捉えられてしまう可能性があると感じた。（田中里沙委員）
- 当時の思想をリスペクトする必要はあるが、現代的な使い方に合わなくなっている部分もある。軸線などを尊重しながらも、それ以外の部分はできるだけ多義的な空間を作っていくということが基本的な思想であり、それらを共存させることが大きなテーマになると思う。（田中友章副会長）
- 都民広場やふれあいモールなども含め、都庁の足元周りは重要な活動・情報発信・発表の場になる。情報インフラがないと、11号街路下のラボから発信する活動の可能性が制約されてしまう懸念がある。（田中友章副会長）
- 4号街路は次世代モビリティが走るようになる中で、やはり情報通信環境を整えることは重要と考える。（坂井委員）
- センシング等で利用状況のデータを取得していくことも重要であり、収集したデータを社会実験や空間整備の効果検証に役立てる等、データドリブンによる検討もできると良い。（泉山委員）
- 来年度以降、基本設計・実施設計に移っていくが、この場所でアクティビティを行うプレイヤーの意見をうまく設計の中に取り込めるかが重要である。（岸井会長）
- 計画・設計段階に全て整理してしまうのではなく、多少は未規定のまま残しておき、ユーザーが手を入れ、関わっていくことができる自由を残していく考え方も大切である。運営側がそれをうまくサポートしながら一緒に作っていくことで、その場所が生き生きと使い続けられる場所になる。（田中友章副会長）
- ソフトの仕掛けは、一方的に作り、ただ提供すれば良いというだけではなく、行きつ戻りつしながらみんなで作りあげていくというプロセスが重要であり、多くの方が参加しながら作り上げていけると良い。（岸井会長）
- スケジュールについては、皆で共通の目標とする節目を共有しながら進めていけると良い。また、新宿中央公園や新宿駅西口広場の再整備等を含む広域でのスケジュールも踏まえながら、都庁周辺のスケジュールを整理できると良い。（岸井会長）
- 展望室は、入場者数が年内には100万人を超える見込み。展望室の利用者がいかに滞在・回遊する空間を作っていけるかが重要であると考えている。（財務局 庁舎運営担当部長）

1 第3回検討委員会コメントサマリー (2/2)

○空間別再編計画(案)に関する主なコメント

◆4号街路沿い、都民広場・サンクンプラザ

- ・新宿駅側からアクセスする場合に、都民広場の方へ斜めに入る通路ができると良い。また議会棟低層部の都政ギャラリーや議会レストランも再編し、建物内の様子が外から感じられるようにできると良い。(坂井委員)
- ・道路と都民広場のレベル差が2m近くあるため、4号街路沿いは中間のGL+1100のレベルを有効に使い、上のレベルへの動線・視線の抜け・空間的な誘いを作っていくことが非常に重要である。GL+1100のエリアは、幅が違ったり、位置が違ったりしながら、人々がうまく誘導される空間にできると良い。(田中友章副会長)
- ・都民広場は時間帯によって変化する日向・日陰を上手く活用することが大事であると感じた。(泉山委員)
- ・ワーカーの利用を想定するのであれば、電源やWi-Fi、目隠しとなる植栽の配置等の対応が必要と感じた。(泉山委員)
- ・イベント時の倉庫の扱いについて、イベント会社が備品を全て用意するのは負担が大きいため、施設側で倉庫を設け、備品などを貸し出すといったことも検討できると良い。(泉山委員)
- ・都民広場の再編にあたっては、この場所に意味を持たせ、この場所の存在価値・ブランド力を考える必要がある。都民が地域と繋がり、世界と繋がる場であると設定すると、マルシェやアートイベント等を行うことの意味が出てくると思う。(田中里沙委員)
- ・大型ビジョンやプロジェクションマッピングのようなデジタルイメージは最初からセットしておけると良い。(田中里沙委員)
- ・サンクンプラザは、日陰や落ち着くといったスペックの価値だけではなく、大人の雰囲気やおしゃれさといった部分を施設内の店と連携、或いは対比の中で生み出していけると良い。(田中里沙委員)
- ・サンクンプラザは、壁面緑化も直立する平面ではなく、柔らかさやダイナミックさを入れることや、噴水部分も含めて総合的に手を入れていくことができるのではないかと。(田中友章副会長)

◆ふれあいモール

- ・現在の線対象の空間配置に対し、平面的には非線対称となるみどりの空間を加えて、形式的な空間構成を少し崩していくことは必要であると感じた。(坂井委員)
- ・人々が寛ぎ、時間を過ごせるスペースを作っていくためには、フォーマルな構成を和らげていく工夫が必要である。周りに配置しているニッチスペースのような非対称でゆらぎのある空間を増やして、様々な空間を作る方が良い。(田中友章副会長)

◆11号街路下

- ・路地的な空間として、4号街路からアクセスした際にアーバンロビー等様々な場所が染み出しているように見えることで、非常に楽しめる空間になると感じた。(坂井委員)
- ・11号街路高架下の整備時期は2035年頃を想定しているとのことだが、先行的に利活用できることはあると考える。(新宿副都心エリア環境改善委員会 技術担当理事)